

HAMAMATSU

P H O T O N I S O U R B U S I N E S S

浜松ホトニクス株式会社

第68期 年次報告書

平成26年10月 1 日から平成27年9月30日まで

証券コード：6965



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。

ここに、第68期（平成26年10月1日から平成27年9月30日）における事業の概況につきまして、ご報告をさせていただきます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の改善に加え個人消費も底堅く推移するなど、全体としては緩やかな景気回復基調で推移いたしました。しかしながら、期の終わりにかけて新興国経済の減速の影響を受けて不透明感が増すなど、景気の先行き懸念が高まりました。

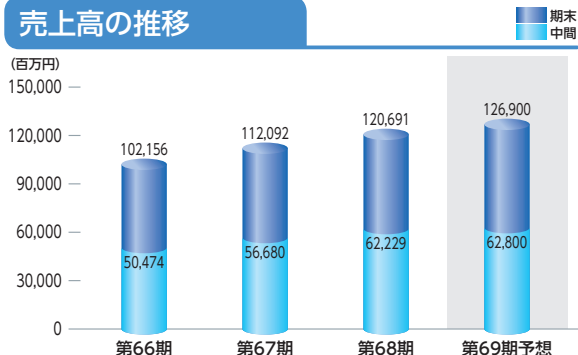
このような状況におきまして、当社グループは、長年にわたり培ってまいりました独自の光技術を活かした研究開発を推進し、顧客ニーズに対応した高付加価値製品の開発や生産能力の増強に向けた設備投資を継続するとともに、積極的な営業活動を展開することで、売上高、利益の拡大に努力してまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績につきましては、国内売上げが堅調に推移したことに加え、海外売上げが為替の影響もあり大幅に増加した結果、増収増益となりました。

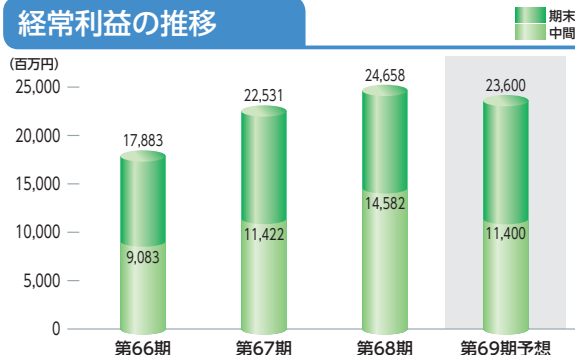
当社グループを取りまく今後の経営環境につま

連結財務ハイライト

売上高の推移



経常利益の推移



しては、不透明な欧州の情勢や新興国経済の減速など、厳しい状況にあると認識しております。

このような中、当社グループが創業以来追求している「光」は様々な産業を支える基盤技術となっており、今日における技術革新や電子機器の高機能化・高精度化等のためには、光技術のさらなる進化が世界規模で求められるものと認識しております。

当社グループは、こうした光産業の拡大や経営環境の変化に柔軟かつ迅速に対応するため、中長期的なビジョンのもと、成長に向けた積極的な研究開発投資や設備投資を行うことで、持続的かつ安定的な高収益体制の構築を目指してまいります。

当社グループといたしましては、ベンチャー精神を忘れることなく、創業以来培ってきた光技術を今後も絶え間なく発展させることで新産業の創成、社会への貢献を目指すことにより業容を拡大し、光技術の世界的リーディングカンパニーとしての地位を確固たるものにしてまいいる所存でございます。

株主の皆様におかれましては、これまで以上のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年12月

代表取締役社長
晝馬 明

第68期連結業績

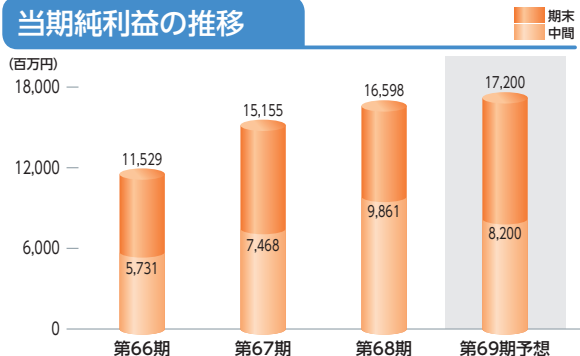
売上高	120,691百万円（前期比7.7%増）
営業利益	23,596百万円（前期比8.9%増）
経常利益	24,658百万円（前期比9.4%増）
当期純利益	16,598百万円（前期比9.5%増）

第69期連結業績予想

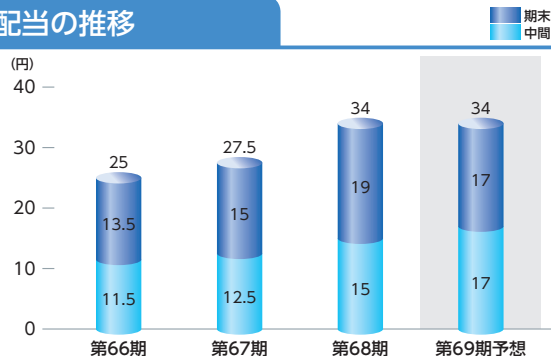
売上高	126,900百万円（前期比5.1%増）
営業利益	23,200百万円（前期比1.7%減）
経常利益	23,600百万円（前期比4.3%減）
親会社株主に帰属する当期純利益*	17,200百万円（前期比3.6%増）

※会社計算規則の改正により、第69期以降、従来の「当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」となります。

当期純利益の推移



配当の推移



※平成27年4月1日をもちまして、1株につき2株の割合にて株式分割を行っております。そのため、第66期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して算定しております。

■ 財務で見る浜松ホトニクス

売上高 **1,206億91**百万円

海外売上高比率 **69.1%**

営業利益 **235億96**百万円

売上高営業利益率 **19.6%**

研究開発費 **116億15**百万円

売上高研究開発費率 **9.6%**

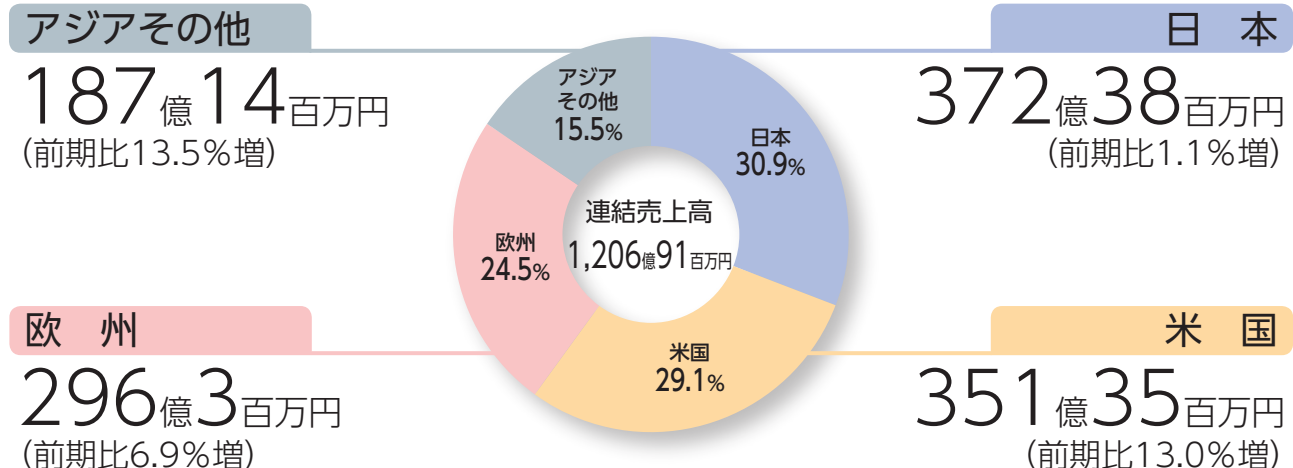
1株当たり年間配当金
(中間30円、期末19円) **49円** ※

配当性向 **32.9%**

※平成27年4月1日をもって、1株につき2株の割合にて株式分割を行っております。そのため、株式分割前に換算いたしますと1株当たり配当金は年間68円となり、前期より13円の増配となります。

■ 地域別（顧客所在地別）で見る浜松ホトニクス

● 売上高構成比



■ 業界別で見る浜松ホトニクス

● 売上高構成比

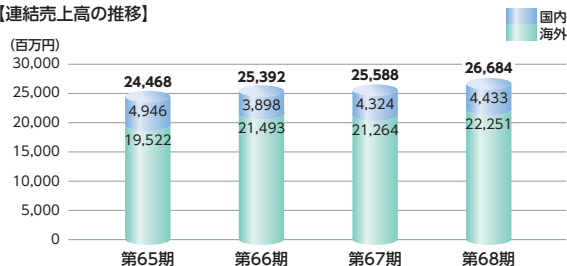


光電子増倍管

電子管事業

光電子増倍管は、計測分野における油田探査装置向けの売上げは油田開発投資の低迷により減少いたしましたものの、分析分野における環境分析向けが堅調に推移いたしました。また、医用分野におきまして、血液分析などの検体検査装置向けの売上げが、その高感度、高速応答特性を評価されて海外を中心に好調に推移したほか、PETなどの核医学検査装置向けの売上げも堅調に推移いたしました結果、光電子増倍管の売上げは26,684百万円と前期に比べ4.3%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲大口径光電子増倍管

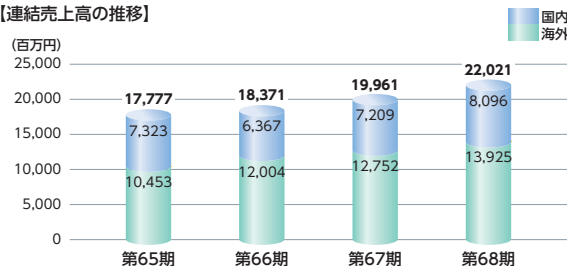
売上高比率 **22.1%**

イメージ機器及び光源

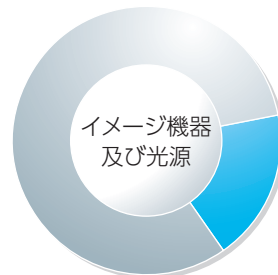
電子管事業

イメージ機器及び光源は、産業分野におきまして、X線非破壊検査用のマイクロフォーカスX線源が、製造工程におけるインライン向けにその高精細かつ高い信頼性・安定性を評価され、欧州及び国内で好調に推移いたしました。また、シリコンウェハを高速・高品位に切断するステルスダイシングエンジンや大型パネルを高精度に接着するUV-LED光源の売上げも増加いたしました結果、イメージ機器及び光源の売上げは22,021百万円と前期に比べ10.3%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲UV-LED光源

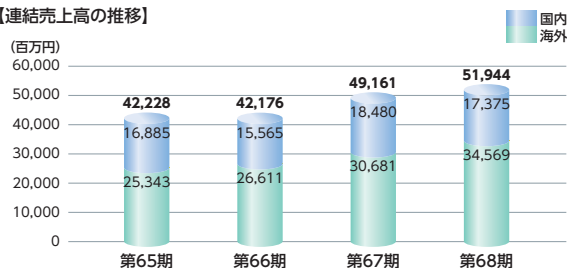
売上高比率 **18.2%**

光半導体素子

光半導体事業

光半導体素子は、医用分野におきまして、主力のシリコンフォトダイオードが、顧客ニーズに的確に応えている点などを評価され、米国における医用装置向けを中心に大幅に売上げが増加したほか、フラットパネルセンサも歯科用を中心に引続き堅調に推移いたしました。また、自動車の車内ネットワーク通信のフォトICも欧州において売上げを伸ばしました結果、光半導体素子の売上げは51,944百万円と前期に比べ5.7%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲車内ネットワーク通信用フォトIC



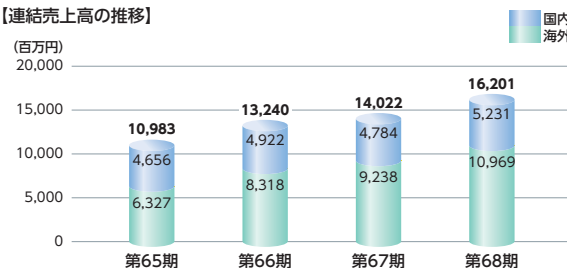
売上高比率 **43.0%**

画像処理・計測装置

画像計測機器事業

画像処理・計測装置は、半導体故障解析装置が、広視野における高解像度・高感度を評価され、国内外における売上げが大幅に増加いたしました。また、デジタルカメラも顧客ニーズに応えた高い性能を評価され、生命科学やバイオ分野を中心に売上げが増加いたしました。さらに、X線ラインセンサカメラも食品検査用を中心に売上げを伸ばしました結果、画像処理・計測装置の売上げは16,201百万円と前期に比べ15.5%の増加となりました。

【連結売上高の推移】



▲半導体故障解析装置



売上高比率 **13.4%**

当社グループでは、長年にわたり培ってきた独自の光技術を駆使し、バイオ、医療、情報、通信、エネルギー、物質、宇宙・天文、農業等の分野において、新しい知識、新しい産業の創成を目指した基礎研究を推し進めるとともに、新製品の開発及び既存製品の高機能化・高付加価値化を目指した開発を行っております。

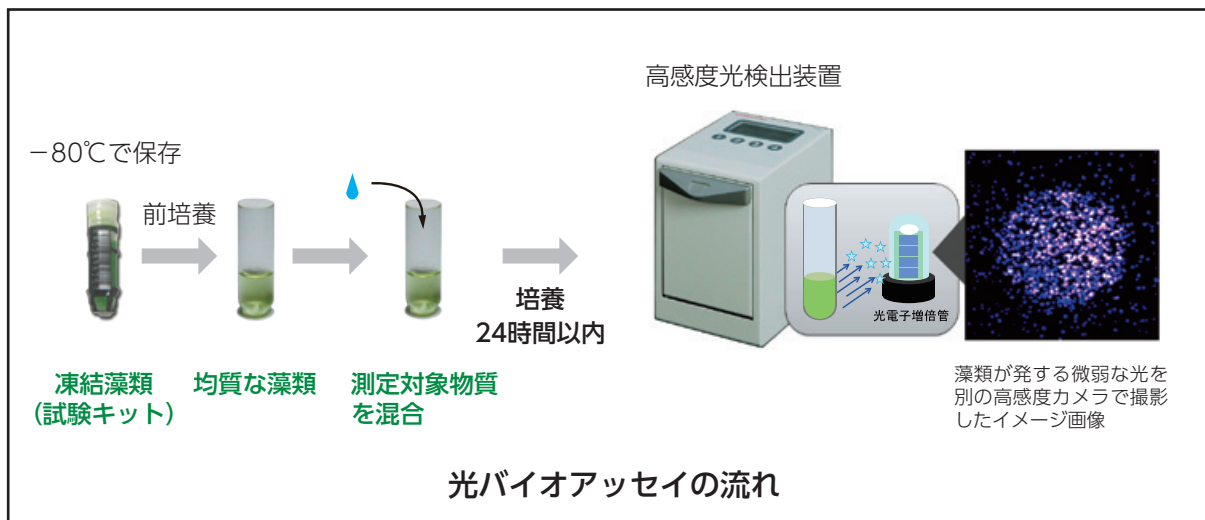
なお、当連結会計年度の研究開発費は、11,615百万円と前期に比べ5.8%増加いたしました。

以下に、第68期におけるその成果の一部をご紹介します。

〔基礎研究分野〕

光バイオアッセイシステムによる化学物質の簡便な毒性評価

バイオの分野におきましては、光バイオアッセイシステム^[1]の実用化研究を進めております。本システムは、測定対象物質の溶液と混合した藻類が発する微弱光を検出・計測することでその物質のもつ毒性を評価するものですが、この度、藻類細胞を試薬化した試験キットによる簡便な試験法を実用化いたしました。これにより、試験に必要な藻類細胞の培養とその維持管理を大幅に簡素化でき、高品質な毒性評価がより短時間かつ低コストで実現可能となります。今後は、工場排水等の測定による水質管理への活用や環境負荷の少ない農薬・洗剤等の開発への貢献が期待されます。

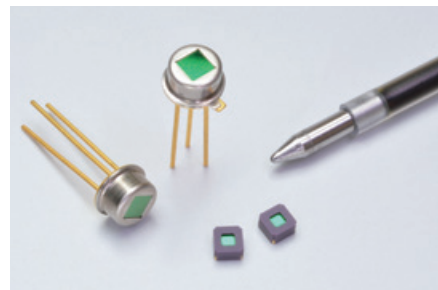


〔1〕 本技術は、国立環境研究所と共同で開発したものです。

[開発分野]

■ 室温動作型赤外線受光素子

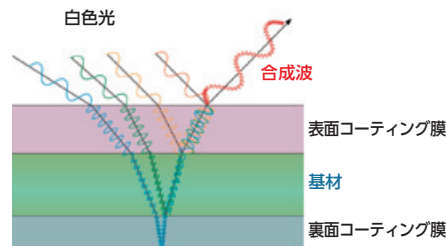
波長 3～5 μm 帯の赤外線には環境破壊の原因とされるガスの吸収波長が含まれているため、この波長域に感度を有する赤外線受光素子を用いることで、ガスの濃度計測を行うことができます。しかし、この波長域における現在主流の室温型赤外線受光素子には鉛が含まれており、環境上の問題がありました。また、鉛を含まないタイプは冷却が必要なため小型化・低価格化に限界があり用途も限られておりました。このような中、長年培ってきた化合物半導体結晶成長技術やプロセス技術により、この波長域において、鉛を含まず環境にやさしいことに加え室温動作が可能な赤外線受光素子を開発いたしました^[2]。この赤外線受光素子を用いた計測は、今後、環境分野だけでなく、医療、農業などの幅広い分野での貢献が期待されます。



▲室温動作型赤外線受光素子

■ 製造装置や検査装置への組み込みが容易な小型膜厚計

近年、スマートフォンなどのタッチパネルには、導電性、表面保護などの機能を付与するために多層のコーティングが施されています。膜厚計は、コーティングの厚みを測定することで品質不良を検査するものですが、製造装置や検査装置に組み込むことで測定的高速化が可能になります。当社は、業界で唯一、基材の両面の膜厚を同時計測できる機能に加え、シーケンサ^[3] 接続に対応したほか、最先端の分光技術により小型化を実現したことで、装置への組み込みが容易な膜厚計を開発いたしました。当社の膜厚計は、製造・検査工程における作業時間の短縮や高効率で安定した品質管理に貢献いたします。



▲基材の両面の膜厚を同時に測定する原理図。薄膜に入射した白色光は、階層ごとに異なる屈折率で反射又は透過し、膜厚に依存した特有のスペクトルを示します。このスペクトルを解析することで膜厚を測定することができます。

[2] 本開発成果の一部は、NEDO助成事業「環境計測／産業用高性能量子型室温動作赤外線検出素子の開発」によるものです。

[3] 工場などにおける機器をプログラムにより自動制御する装置です。

● 光技術で人類の科学技術の進歩に貢献

東京大学宇宙線研究所長 梶田隆章教授が2015年のノーベル物理学賞に輝きました。梶田先生は、素粒子ニュートリノの質量の存在を示すニュートリノ振動を発見し、ニュートリノが質量をもつことを結論付けました。これは新たな物理法則の構築を迫る大きな成果です。

この成果に大きな役割を果たしたのは、1996年から稼働している東京大学宇宙線研究所の地下実験施設「スーパーカミオカンデ」です。「スーパーカミオカンデ」は旧実験施設「カミオカンデ」をさらに性能アップさせた実験施設です。

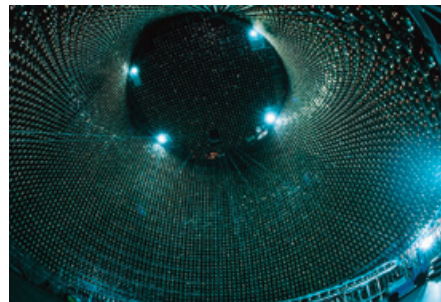
「カミオカンデ」は、1987年に大マゼラン星雲の超新星爆発によるニュートリノの観測に人類で初めて成功し、小柴昌俊先生（東京大学特別栄誉教授）のノーベル物理学賞受賞に大きな役割を果たしました。

当社は、「カミオカンデ」及び「スーパーカミオカンデ」実験の「目」である大口径光電子増倍管を開発、納入し、「スーパーカミオカンデ」では、大口径光電子増倍管の性能も格段にアップさせました。

また、「スーパーカミオカンデ」で2年間にわたり大気ニュートリノを観測した結果から得られたニュートリノ振動を人工的なニュートリノでも検証するための実験が、1999年から開始されました。この実験は、茨城県つくば市にある高エネルギー加速器研究機構の陽子加速器で作りに出した人工的な大量のミューニュートリノを、約250km離れた「スーパーカミオカンデ」に向けて地中を飛ばして観測するというものでした。実験結果は、人工的なニュートリノでもニュートリノ振動が観測されニュートリノの質量の存在を示すものでした。

この実験では「スーパーカミオカンデ」だけではなく、人工的なニュートリノを飛ばす加速器側の前置検出器のキーデバイスとしても当社の大口径光電子増倍管や大口径イメージンテンシファイアが多数使用されました。

当社は、「カミオカンデ」に続き「スーパーカミオカンデ」実験といった偉大な研究実験に参画できたことを感謝するとともに、今後も、人類未知未踏を追求し、光技術で科学技術の進歩に貢献してまいります。



▲スーパーカミオカンデ内部
11,200本の20インチ大口径光電子増倍管が壁面に取りつけられています。



▲20インチ大口径光電子増倍管

● 光のふしぎを学ぶウェブサイト「Photonてらす」(<http://photonterrace.net>) を開設

国際連合は、2015年を「光と光技術の国際年」とすることを宣言しました。これは、光技術が社会の発展に重要であることを認識し、医療、エネルギー、情報、天文など様々な分野に応用される光に関する新しい知識と光関連の活動を促進することの重要性を社会に浸透させていくためとしています。

当社はこの「光と光技術の国際年」にあたり、主に小学校高学年から一般の方まで多くの方々に、身近な存在でありながら未知の部分が多い光の魅力を感じ、光のふしぎに触れていただくため、ウェブサイト「Photonてらす」を開設いたしました。「Photonてらす」では、基本的な光の特徴や性質、光に関する研究の歴史、光の特性を使ったテクノロジーや、そのテクノロジーが私たちの生活の中でどのように役立っているかなどを紹介しております。

「Photonてらす」をきっかけとして、多くの方々に光への興味をおもちゃいただければと存じます。



▲「Photonてらす」トップページ



▲二次元コード読取機能付の携帯電話等を利用して、上の二次元コードを読み取りいただくことでアクセスいただけます。

● 豊岡製作所に新棟を建設

豊岡製作所（静岡県磐田市）に新棟が完成し、稼働を開始いたしました。新棟では、ヘッドオン型光電子増倍管の生産ラインを集約し、一貫生産工場として生産の効率化を図るとともに新製品の開発に取り組めます。また、今後予想されるニュートリノ実験など最先端の素粒子物理学実験用の各種光電子増倍管の増産にも対応いたします。

この新棟の建設により、売上高100億円規模に相当する生産能力の拡大が可能となります。



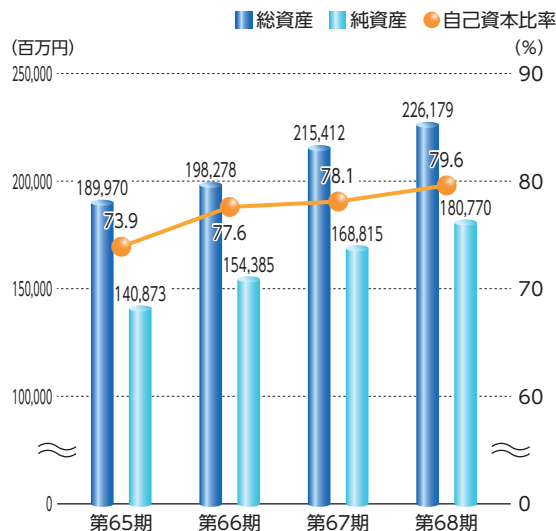
▲豊岡製作所新棟外観

連結貸借対照表

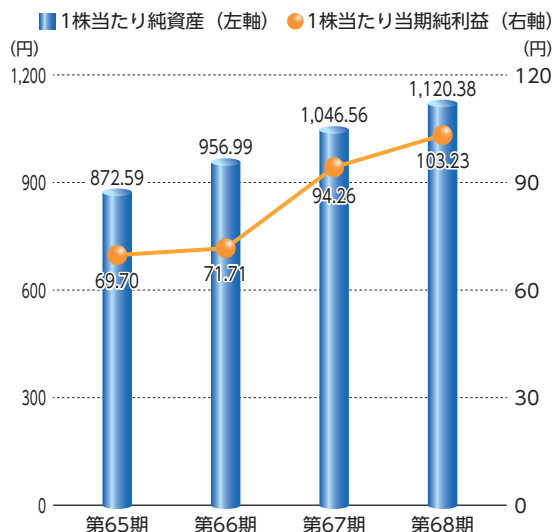
(単位：百万円)

科 目	当 期 (平成27年9月30日現在)	前 期 (平成26年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	147,160	142,947
固定資産	79,019	72,464
有形固定資産	66,854	61,623
無形固定資産	1,766	1,735
投資その他の資産	10,398	9,105
資産合計	226,179	215,412
負債の部		
流動負債	35,833	36,046
固定負債	9,575	10,550
負債合計	45,409	46,596
純資産の部		
株主資本	174,179	164,828
資本金	34,928	34,928
資本剰余金	34,672	34,672
利益剰余金	110,637	101,278
自己株式	△6,059	△6,050
その他の包括利益累計額	5,962	3,445
その他有価証券評価差額金	520	695
為替換算調整勘定	4,367	1,589
退職給付に係る調整累計額	1,074	1,160
少数株主持分	629	541
純資産合計	180,770	168,815
負債純資産合計	226,179	215,412

■ 総資産／純資産／自己資本比率



■ 1株当たり純資産／1株当たり当期純利益



※平成27年4月1日をもちまして、1株につき2株の割合にて株式分割を行っております。そのため、第65期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して算定しております。

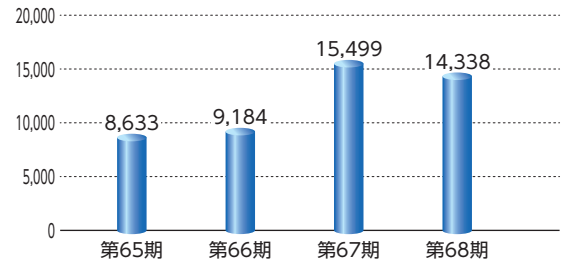
連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 (自 平成26年10月 1 日 至 平成27年 9 月30日)	前 期 (自 平成25年10月 1 日 至 平成26年 9 月30日)
売上高	120,691	112,092
売上原価	57,582	53,451
売上総利益	63,109	58,641
販売費及び一般管理費	39,512	36,975
営業利益	23,596	21,665
営業外収益	1,287	1,074
営業外費用	224	208
経常利益	24,658	22,531
特別利益	706	13
特別損失	691	82
税金等調整前当期純利益	24,672	22,462
法人税等	8,038	7,276
少数株主損益調整前当期純利益	16,634	15,185
少数株主利益	35	29
当期純利益	16,598	15,155

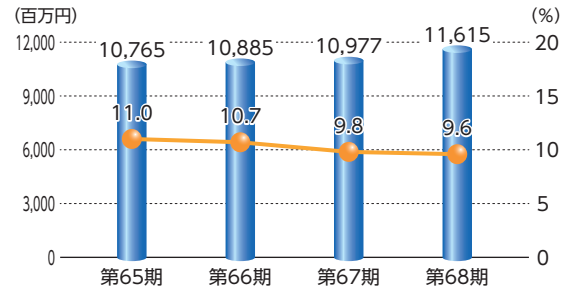
連結設備投資額

(百万円)



連結研究開発費

■ 研究開発費 ● 対売上高比率



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当 期 (自 平成26年10月 1 日 至 平成27年 9 月30日)	前 期 (自 平成25年10月 1 日 至 平成26年 9 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,046	23,135
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,057	△13,677
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,878	△4,139
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,163	1,110
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,725	6,429
現金及び現金同等物の期首残高	49,281	42,852
現金及び現金同等物の期末残高	45,556	49,281

● 会社の概況

設 立 昭和28年9月29日

資 本 金 34,928百万円

従 業 員 数 3,197名

主要営業品目 光電子増倍管、イメージ機器、光源、
光半導体素子、画像処理・計測装置

役 員 (平成27年12月18日現在)

取 締 役 会 長	晝 馬 輝 夫
代 表 取 締 役 社 長	晝 馬 明
代 表 取 締 役 副 社 長	大 塚 治 司
代 表 取 締 役 専 務 取 締 役	山 本 晃 永
代 表 取 締 役 専 務 取 締 役	竹 内 純 一
常 務 取 締 役	飯 田 等
常 務 取 締 役	鈴 木 賢 次
常 務 取 締 役	武 村 光 隆
常 務 取 締 役	原 勉
常 務 取 締 役	吉 田 堅 司
取 締 役	嶋 津 忠 彦
取 締 役 (社 外)	伊 勢 清 貴
取 締 役	鳥 山 尚 史
取 締 役 (社 外)	小 館 香 椎 子
常 勤 監 査 役	森 和 彦
常 勤 監 査 役	水 島 廣
監 査 役 (社 外)	浜 川 雅 春
監 査 役 (社 外)	楨 祐 治

● 国内拠点

本 社 事 務 所
静岡県浜松市

工 場
本社工場／新貝工場／天王製作所／常光製作所／
都田製作所 (いずれも浜松市)／豊岡製作所／
三^{みつ}家工場 (いずれも磐田市)

支 店 ・ 営 業 所
東京支店・東京営業所／仙台営業所／筑波営業所／
中部営業所 (浜松市)／大阪営業所／西日本営業所 (福岡市)

研 究 所
中央研究所／産業開発研究所 (いずれも浜松市)／筑波研究所

● 連結対象子会社

国 内
株式会社光素／高丘電子株式会社／浜松電子プレス株式会社／
株式会社磐田グランドホテル

海 外
米 国 ホトニクス・マネージメント・コーポ
ハママツ・コーポレーション
欧 州 ハママツ・ホトニクス・ドイチュラント・ゲー・エム・
ベー・ハー
ハママツ・ホトニクス・フランス・エス・ア・エール・
エル
ハママツ・ホトニクス・イタリア・エス・アール・エル
ハママツ・ホトニクス・ユー・ケイ・リミテッド
ハママツ・ホトニクス・ノルデン・エイ・ビー
ハママツ・ホトニクス・ヨーロッパ・ゲー・エム・
ベー・ハー

アジア 浜松光子学商貿 (中国) 有限公司
台湾浜松光子学有限公司
北京浜松光子技術股份有限公司
浜松光子学科学儀器 (北京) 有限公司
浜松光子医療科技 (廊坊) 有限公司

平成27年9月30日現在

●株式事項

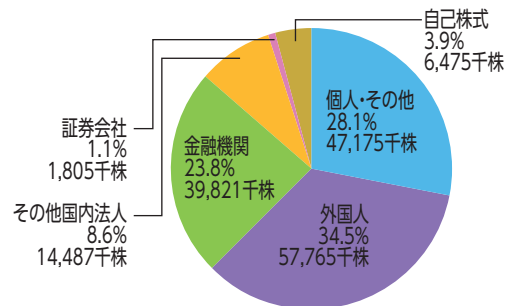
■発行済株式総数 167,529,968株

■株主数 30,774名

大株主	株式数
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	9,020,800株
トヨタ自動車株式会社	8,400,000株
浜松ホトニクス従業員持株会	5,495,062株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	5,199,600株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	4,949,700株
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	4,504,697株
晝馬輝夫	3,153,284株
野村信託銀行株式会社（投信口）	2,935,200株
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイ ロンドンスペシャルアカウントナンバーワン	2,795,456株
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505225	2,283,934株

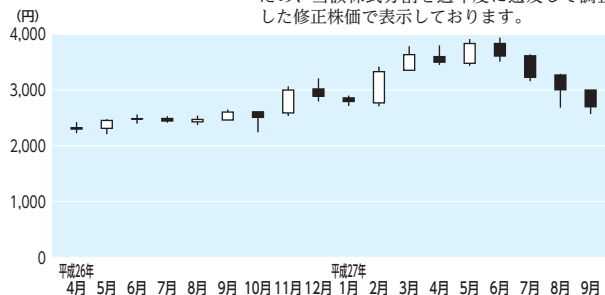
（注）上記のほか、自己株式6,475,034株があります。

■所有者別株式分布状況



●株価の推移

※平成27年4月1日をもちまして、1株につき2株の割合にて株式分割を行っております。そのため、当該株式分割を過年度に遡及して調整した修正株価で表示しております。



ウェブサイトのご案内

当社ウェブサイトでは、製品情報、製品サポート、展示会情報、研究開発、会社情報、株主・投資家情報などのほか、光に関する様々なコンテンツを提供しております。

TOPページ



株主・投資家情報



URL <http://www.hamamatsu.com>

●株式についてのご案内

株式に関する各種手続きのお申出先	
1. 証券会社に口座をお持ちの株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定等のお手続き	▶ お取引されている証券会社等 にお申出ください。
2. 未払配当金の支払い及び証券会社に口座をお持ちでないため特別口座が開設されました株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金受取方法の指定等のお申出先	▶ 三井住友信託銀行株式会社 0120-782-031 (通話料無料) (受付時間 土・日・祝祭日を除く9:00~17:00)

●株主メモ

事業年度	10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会 定時株主総会基準日	毎年12月 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して一定の日を定めます。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 上記のお問い合わせ先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行事務センター 電話 0120-782-031 (通話料無料) なお、取次事務は三井住友信託銀行株式会社の全国本支店でっております。
単元株式数	100株
公告方法	電子公告の方法により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載の当社ホームページアドレス http://www.hamamatsu.com/ja/ir/index.html